

平成19年 南東北連合学術学会

金賞獲得

号外



▲ 演題発表風景



▲ 金賞に輝いた発表者の看護師鈴木さんと優勝旗

11月3日(土)「文化の日」に総合南東北病院で、平成19年南東北連合学術学会が開催されました。この南東北連合学術学会は、南東北病院グループの医療・福祉施設に勤務する職員が集まり、日々の業務経験から学んだことや研究の成果を発表しディスカッションする学会です。輝く金賞は、当院回復期リハビリ病棟が受賞しました。演題は「エビデンスに基づいたケアの模索～スムーズな排泄の試み～」でした。渡邊一夫理事長から表彰状と賞金、それに真紅の優勝旗が贈られました。



▲ 回復期リハ病棟の岩本さん、鈴木さん、二瓶さん(左から)

受賞者から一言

看護研究を積み重ねる事で学んだことも多くあり、苦労したこともありました。今回学術学会で金賞を受賞し、とてもうれしく思います。また協力して下さったスタッフのみなさん本当にありがとうございました。

演題「エビデンスに基づいたケアの模索」 ～スムーズな排泄の試み～

「排泄」は三大介護のうちの一つでありチームで関わるべき問題も大きい。排泄についての関わりをロイの適用看護モデルを参考に、基本的生理的ニードに対して多い便秘に対する下剤使用に着目し、水分摂取と離床時間延長介入を4週間施行。病前・介入前後の水分摂取量、離床時間、排便回数、下剤使用状況、BIの評価、アンケートにより患者の主観的情報を得た。結果、便秘自体の改善、下剤の適正化(下剤の中止、下剤の減量)が得られた。(内容抜粋)

南東北連合学術学会

当施設では、金賞を受賞した回復期リハビリ病棟の他に、老健、リハビリテーション科相談室など5題の発表がありました。



「ポスター演題」

「戦略的な家族面接」の模索(第一報)
相談室: 星真理子・江連一也・
安藤宏明・後藤美香

認知運動療法を活かした生活への適応化の取り組み

脳卒中により感覚障害を呈した一症例-
リハビリ 庄子久美子・根本悠平



ブラッシュアップ入所の展開①

-廃用改善の視点と技術を学んで第一症例-
老健 水野美和・阿部英人・江連一也・宗方まゆみ

ブラッシュアップ入所の展開②

-「心理・行動・環境」の視点により、20年に渡る
リウマチに対する誤解から開放された一症例-
老健 橋本友美・鈴木琢磨・生田目栄子
江連一也・面川沙智・宗方まゆみ



リスク管理

-転倒リスクに対する多種の視点の偽りの分析と
考察-
リハビリ 小嶋健太・遠藤友美・相楽哲

今回、様々な研究発表がありました。
研究を通じてよりよい医療・介護サービスの
提供につなげていきたいです。